



2024年度 3学年通信

「疾風勁草(しっふうけいそう)」

甲府東高等学校

2024. 5. 24(金)

第3号



2組担任 谷戸悠紀

私の誕生日4月18日は「お香の日」「三重県民の日」「発明の日」そして「世界アマチュア無線の日」であるが、それにちなんで今回は私の好きな言葉「アマチュア」について書いてみたい。アマチュア(英 amateur)とは、芸術・学問・スポーツなどを、職業ではなく、趣味や余技として行う事である。素人や愛好家とも言い、よく「アマ」とも略される。対義語はプロフェッショナル(professional、金銭を得る人)である。とすればアマチュアや趣味、素人という言葉は、悪い印象を抱かれがちだ。しかし私は趣味とは金銭が絡まない純粋な「自分がやりたいからやる」という気持ちでやるものだからこそ、ライフワークの幹となるものだと思っている。またアマがプロに劣るとも思っていない。

例えば冒頭のアマチュア無線だが、アマチュア無線家になるには、無線局の設備があることが前提となり、資格取得のための各試験も難関なことから非常に狭き門である。しかし全世界に約300万人以上のアマチュア無線家が利益にならないことに全力で取り組んでいるのだ。また近代オリンピックの黎明期にはアマチュアリズムの精神が重視されており、金銭が絡まないからこそ、純粋なスポーツ大会ができると考えられていた。現在でも高等学校の部活動はアマチュアリズムで運営されていて、その大会(甲子園など)は人気がある。

アマチュアについて述べた名言で好きなのが、タモリの「仕事じゃねえんだ! 真剣にやれよ!」である。彼の自分の趣味に対する考えが良く伝わってくる。また「やる気のあるものは去れ」という言葉も残している。一見びっくりする言葉だが、過度なプロフェッショナリズムをけん制し、「遊び」を大切に、広い視野を持つことの大切さを教えてくれる深い言葉だと思っている。見返りを求めないからこそ自由な発想が出てくるのもアマチュアの良いところだと思う。

高校三年生の皆さんは否か否でもプロフェッショナルな領域である「職業」について意識することだろう。プロフェッショナル、すなわち社会に求められているいい仕事ができること、他者に対して責任を果たすことができること、その対価としてお金を得られることは、とても素晴らしいことだ。社会に受け入れられている感覚は、自己肯定感にもつながる。だからこそ「好きなことを仕事にする」ことは魅力的だ。しかし「好きなことだからこそ仕事にしない」という選択肢も、私は決して間違っていないと思う。いずれにせよ、皆さんにも、私自身もだが、良いアマチュアな何かを持った人生を送ってほしいと思う。

「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください

『やってみよう』を大切に

学年主任 遠藤祐也



第1回定期試験、おつかれさまでした。以前からお伝えしていたように、試験の回数が少ない3年生では1回1回のウエイトが大きいため、普段の定期試験よりも力が入っていた生徒が多かったと思います。私は毎朝7時15分頃に出勤していますが、その時点で20人近い3年生がすでに登校して教室や自習室で勉強をしています。放課後も先生の所へ質問に来る生徒が増えてきたと感じますし、この前は自分で用意した国語の参考書を持参して質問に来てくれた生徒もいました。それぞれの努力が実るといいなあと思います。

さて、5月上旬の定期演奏会や高校総体と、部活動の大きなイベントが続きましたね。音楽や競技に取り組み、後輩に声をかけリードする、日頃の教室では見ることができない君たちをみて、とても頼もしく感じました。このタイミングで部活動を終えたみなさん、おつかれさまでした!

一方、この後ももう少し活動を続ける生徒もいますね。先日ある生徒から、「一度は部を引退したんだけど、あと少し続けようか迷っている」という話を聞きました。「迷っている」、というのは本心では部活動を続けたい、けれども勉強と両立できるかどうか心配だし、引退して受験勉強にシフトチェンジしている同級生を間近にすると不安になる、ということでした。このようなことを考えている生徒は多いのではないのでしょうか。どうしたものでしょうか。

私は「本心に従うべき」だと思います。「活動を続けたい」という意欲はとても尊いですし、部活動を続けるにしてもどのみちあと数か月。それに自分の意欲や願望にフタをして行う学習のパフォーマンスが高くなるとも思わないですね。その代わり、勉強との両立ができるかどうか、ではなく、「両立させる」のです。いつもより少し早く起きて朝学習を取り入れる、帰宅後15分くらいの夕寝をして心身をリセットする、などいろいろな工夫が考えられます。今年度のスローガン「じりつ」の「じ」は「軸を持つ」ということです。自分の決定に「覚悟」をもち、誠実に取り組めば、周りの生徒の動きなんて気にならなくなります。まさに「人は人、自分は自分」です。ちなみに、アメリカの心理学者であるトマス・ギロヴィッチ、ヴィクトリア・メドヴェクらの研究によると、人は行動したことを後悔するより、行動しなかったことを後悔する機会が多いという結果が明らかになっており、特に「行動しなかったことに対する後悔」は人生の長い期間にわたる後悔となると報告しています。これはもう、やるしかないですね。

定期試験が終わり、いよいよ学園祭に向けた準備が始まります。最後の学園祭ゆえ、意気込みも大きいことでしょう。私自身も高校3年生の時の学園祭が高校の思い出として最も強く残っています。それぞれの部門やブロックでの総合優勝を目指して真剣に取り組む学園祭が本校の伝統ですし、真剣に取り組むからこそ思い出として残りますし、思い出に残るからこそ受験生へのモードチェンジもスムーズにできると思います。勉強は家でできます。学園祭までの放課後や昼休みは、勉強よりも準備に注力し、最高の学園祭にするべく知恵を出し合い、議論を交わし、自分たちの「やってみよう」の実現に向けて全力で取り組もう!

青春の成熟期にある君たちの「やってみよう」がどう結実するのか、ワクワクしています。

6月の主な行事予定

- 6月 1日(日) 駿台模試(希望者)
- 3日(月) 原付免許取得希望者説明会(昼)、教育実習(~6/21)
- 5日(水) 前半カセット、5分短縮授業、眼科検診(抽出者)
- 7日(金) 教育相談
- 11日(火) 前半カセット
- 18日(火) ①②授業、③LHR、④~学園祭準備
- 19日(水) 蒼龍祭(1日目:文化ホール、午後保護者公開)
- 20日(木) 蒼龍祭(2日目:甲府東高校、保護者公開)
- 21日(金) ①②カット、③片付け・清掃、午後授業
- 25日(火) 10分短縮授業、⑦野球部、全国大会等壮行会
- 26日(水) 登校時マナーアップ運動
- 27日(木) 選挙管理委員会(昼)、保護者対象進路研修会
- 28日(金) 前半カセット、進研記述模試(~29日)



進路指導係より

今回は生徒の皆さんから聞かれることの多い「よくある質問」に3学年の先生達で答えてみました。明確な答えのない質問が多く、各先生たちの価値観が現れた回答もあります。それらは唯一の正解ではないので、考え方の1つとして参考にしてください。

Q.3年生でもオープンキャンパスに行った方がいいのか？

A.行っていいと思います！特に第一志望の学校にまだ行ったことないという人は行くべきです。実際に大学に足を運んでみることで「絶対にここに合格したい！」という気持ちが強まり、その後の勉強のモチベーションになったという生徒を多く見てきました。ただし、たくさんの大学に行くのではなく、本当に行きたい気持ちの強い数校にするのがいいと思います。

Q.推薦や総合型を受験したいのですが、どのように申し出ればいいのか？

A.具体的な日程はまたの機会に提示しますが、まずは7月の三者懇談で担任の先生にその意思があることを伝えてください。学園祭が終わってすぐになるので、忙しい中ですが6月中によく研究をしておく必要があります。大学側が提示するアドミッションポリシーと自分はマッチしているか、試験では何が課されるのか（面接・小論文・学科試験・実技試験…）、志望理由書はどんな形式なのか、出願条件はクリアしているか…etc. これらも確認せずに申し出をされても「本当にこの大学を志望しているのか？」と誤ってしまいます。

Q.情報の勉強はどうすればいいか？

A.3～4月にかけて学校推薦の参考書、問題集を斡旋・販売したところです。心配な生徒は2年2月マーク模試の結果を踏まえて苦手な分野を絞って取り組んではどうでしょうか。全体的にはプログラミング分野が弱い生徒が多いので、そこから手をつけるのもアリですね。本校の生徒の中には非常に高いプログラミングスキルを持った生徒が何人かおられますので生徒同士で教え合いをすることも双方にメリットがあり、おすすめです。

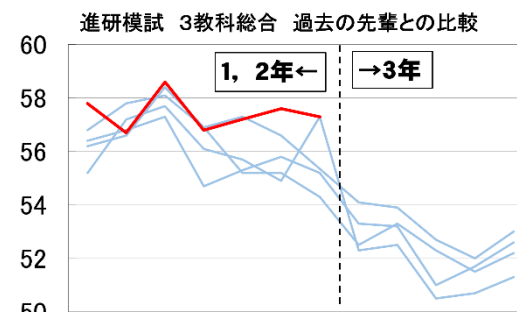
Q.塾に行った方がいいか（小論文・面接の練習だけでも）

A1.塾に行けば行ったなりに、得られるものは多いと思います。志望校に対応した講義が受けられる、受験について相談できる人が増える、キレイな自習室がある…etc.上手く活用すれば目標達成の助けになるはずです。一方、「みんな行ってるから」「部活を引退したからなんとなく」のような明確な目的なく塾に行き始めるのは危ないのでは？と思います。そういった消極的な姿勢で塾に通う人は時間ばかりが取られていて、上手くいっていない人が多い気がします。また、小論文・面接の指導については9月以降学校の先生方が担当についてたくさん練習してもらえるので、それだけが理由で塾に行く必要もないのではないのでしょうか。

A2.「学習」とは漢字の語源的にも「学ぶ（＝真似ぶ）」「習う（＝ひな鳥が飛び方をひたすら練習する）」の2種類があります。つまり「レクチャー」と「ドリル」です。成績が伸び悩んでいる科目は、①そもそも理屈がわかっていない。（＝レクチャーが不足）②理屈はわかっているが演習が足りない。（＝ドリルが不足）のどちらでしょうか？①であれば塾で講義を受けることは意味あることだと思います。②であれば、説明を聞いている時間ももったいないと思います。

Q.今年の模試から浪人生も入ってきて成績が下がると聞いたのですが、実際どのくらい下がるのか

A.偏差値で言えば「5」程度下がると思ってもらえばいいかと思います。右のグラフは以前集会でも提示されたものですが、過去の先輩たちも3年生になった途端下がっているのが分かると思います。とはいえ競争相手に急に先輩が参戦してくるのだから偏差値が下がるのは当然のことなので、驚くかもしれません。気がしすぎないようにしましょう。



寄せられた質問はまだあります、続きは6月号で！